

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2394000042		
法人名	医療法人 双樹会		
事業所名	グループホーム サマリヤの家 東		
所在地	愛知県新城市矢部字広見55番地1		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoSyodOid=2394000042-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoSyodOid=2394000042-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年11月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

現在、ADLの維持に力を入れ取り組んでいる。毎日の散歩を日課として取り組んでいるほか、昨年より機能向上訓練加算を算定し、当法人の老人保健施設のPTの指導の下、機能訓練も毎日欠かさず行っている。また、職員は、「できることを奪わない介護」を意識し、ご利用者様のできることを共有することで、できないと諦めず、ご利用者様と一緒にできることを増やすように努めている。また、QOLの質の向上を図る取り組みとして、コロナ禍でも可能な限り、外出支援を行い、室内での生活の質の向上や、家族との面会の充実化を図っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

【コロナ禍により、時間短縮、1人訪問で調査を実施した】  
 これまで外出や面会を制限してきたが、感染状況を考慮して、徐々に活動を再開できるよう準備を進めている。活動量が減ることによって、利用者の身体的な機能の低下が起きないように、法人内の理学療法士の協力も得ながら、日々、機能訓練を実践している。  
 コロナ禍であっても、地域や関連団体との繋がりを大切にしている。RUN件を通して知り合った方の紹介で、のんほいパークの休園日に、公園を利用することができた。日頃ゆっくりと顔を合わせることができなかった家族も呼び、一緒に楽しむことを実現させた。感染症対策を万全にしつつ、様々な資源を活用して、利用者の願いを一つずつ叶える方法を探っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は朝礼で、理念を唱えているが、全ての職員が実践に繋げることはできていない為、実践に繋げられるように努める	日常の支援の中で、理念である「共に」を大切にしながら、もっとやれることはないかということに常に意識している。利用者のできることを見つけ、それに着目した支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり、RUN伴や認知症サポーター養成講座などを通し、地域住民の方に認知症の理解を深めていただき、利用者の支援として地域に出掛ける機会を取り入れている	地域に、「サマリヤの家」が徐々に浸透しつつあり、RUN伴には利用者も参加して、地域のロータリークラブと一緒に活動をしている。高校生とコラボして、地域の活性化にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座などを活用し、グループホームでの取り組みなどを伝えながら、認知症の理解を深めていただくように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の方々からアドバイスをいただき、運営に活かしている。また、他グループホームにも、会議に参加していただいている為、情報の共有の場にもなっている	シルバー人材センターの会議室を借りて、運営推進会議を開催している。会議での委員からの提案により、地域の盆踊り会場に、利用者が参加しやすいように、指定席を設けてもらえることとなった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症地域推進委員として管理者が配属しており、市町村職員との連携が図れている	地域包括支援センターとは、認知症サポーター養成講座や認知症カフェを協力しながら一緒に行っている。地域の認知症理解を深めてもらうため、積極的に活動している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない場合を除き、基本的に身体拘束は行っていない。行った場合は早期に拘束が解除できるように、カンファレンス等で話し合いながら検討している	勉強会などでは、事例等を用いて、身体拘束をしないケアについての理解を深めている。ベッド柵に関して、やむを得ない場合には職員で十分検討した後、家族の同意を得て、状態が解消されるまでの期間のみ設置することとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会などを行い、自分の利用者に対する介護について、見直す機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については過去に研修等で学ぶ機会があったが最近では学ぶことができていない。日常生活の自立支援については、本人のできることを見つげながら取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時にご家族様へ丁寧に説明を行っている。また、家族の要望などにも可能な限りお答えできるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様、家族からの意見に耳を傾け、運営の質の向上に繋げる努力をしている	これまでと違い、面会が自由にできない状況であり、気になることがあれば、遠慮なく話してもらえる関係作りに努めている。どの職員が対応しても良いよう、情報共有を徹底している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の意見を反映し、リスクが高いと思われる提案以外は、職員の意見を尊重し、挑戦する機会を与えている。	会議や日常の業務の中で、改善提案などの意見交換をしている。職員だけで盛り上がるのではなく、利用者も一緒に運営しているという意識を持ち、やれることは自分で実行する姿勢で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のやりたい介護はできているが、その取り組みを評価してはもらえていない。モチベーションアップを図るための取り組みを考えていただきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修はできていないが、グループホーム内での研修は定期的に行っており、外部での研修も再開し始めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属しており、他施設間交流だけでなく、交換研修等もコロナ流行前は行っていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際はご本人様が不安にならないように、積極的にコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者様の様子などを面会時には伝え、ご家族様のご要望にも、可能な限り応える努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状態やご家族様の要望に応じ、当法人のサービスの紹介や、緊急性がある場合は他法人との連携も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設理念の下、「共に」を大切にし、利用者職員が支え合って生活する場を提供している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に協力していただきながら、ご本人様の要望にお応えし、外出支援を行うなどの取り組みも行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会の制限をせざるを得ない状況であったが、感染状況に配慮し、面会制限を行いながらも、友人等の面会が途絶えないように支援してきた	友人等の訪問は、面会制限中は家族を通して連絡してもらい、繋がりが途切れないように努めている。入居前に住んでいた家をドライブがてら見に行き、馴染みの人や場との関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、席の配置などを行っている。また、利用者同士のもめ事が起こらないように職員が仲裁に入るなどの対応を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、転居先の施設へ定期的に連絡し、ご利用者様の状態の把握を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様が少しでも満足した生活が送れるように、何気ない会話などからご本人様の要望などを聞き支援に繋げている	散歩やテレビを観ているときなど、日常会話の中の言葉を拾っている。すぐに実行できること、時間がかかることを仕分けし、介護計画にも盛り込みながら、利用者の思いを実現できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する際に、ご家族様からご本人様の家での暮らしや、過去の情報を収集し、ご本人様への支援や対応に役立っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝健康チェックを行い、状態の把握に努めるとともに、日々の過ごし方について職員で情報の共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回各ユニットでカンファレンスを行っており、それを基に、3か月に1回ケアプランの見直しを行っている。	介護計画とチェック表が連動しており、日々の達成度が分かりやすいよう工夫している。介護計画の作成には家族、職員、理学療法士、歯科衛生士等が関わり、利用者の暮らしをチームで支えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきなどをケース記録にまとめ、情報の共有をするとともに、新たな支援等の検討材料として活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様や家族の要望に対し、可能な限りお応えできるように柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しながら、ご本人様の支援の幅を広げ、在宅で暮らしていた時以上に充実した生活を送ってもらえるように努める		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所と同時に、協力医を基本的に主治医としていただき、医療面でのサポートをいただいている。また、希望により入居前からのかかりつけ医を主治医とする方もいる	入居前のかかりつけ医を継続することは可能で、ホームの協力医とも連携して適切な医療が受けられる体制である。かかりつけ薬局の薬剤師には、薬の相談をすることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年1月より看護師がSSに異動になったため、GH直属の看護師ではないが、SSの看護師に、月2回、入居者の状態把握の為、バイタルの測定や爪のケア等を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるADLの低下を防ぐために、早期退院できるよう、病院との連携を図るようにしている。また、		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じてカンファレンス等で話し合いを行い、必要に応じて家族と話し合いの場を設け、今後の方針を決め、次の行き先などのサポートを行う	利用者の状況に変化があった場合には、ホームとしてできること、できないことを説明し、家族と話し合って次の支援について検討している。看護職員から看取りについての研修を受け、状態に応じた支援ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的な知識は身につけているが、経験が乏しい為、不安がある。今後、消防署と連携し応急手当などの方法を学んでいく予定		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際の災害時を想定した訓練はなかなか行えておらず、今後の課題ではあるが、地域との協力体制は、地域の防災会議等に出席し、構築するように心掛けている	年2回の防災訓練の際に、消防署の協力を得て、初期消火のやり方などを学んでいる。運営推進会議でも防災を議題に挙げ、災害時の利用者への対応について話し合う機会を設けている。	避難訓練に加え、長期間にわたってライフラインが止まった時の対応策などを話し合う機会を設け、不測の事態に備えておくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症だからと決めつけ、個々の発言や言動に対し、傾聴し対応することを心掛けている	個を尊重し、認知症への理解として応用行動分析を取り入れ、利用者の行動の意味を考えた支援を行っている。声掛けも、人それぞれに受け止め方が違うため、利用者毎に声のかけ方に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限るご本人様が自己決定できるように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のできることを奪わない為にも、ご本人様のペースで物事が行えるように、声掛け等に注意しながら支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、眉毛を描いたり、自身で髭を剃っていたり習慣を身に付けていただくように支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニット月2回調理の日を設けており、利用者の食べたい物をメインに、職員と利用者が一緒になって調理を行う日を設けており、作る楽しみ、食べる楽しみを味わっていただいている	日常の食事はメニューが決まっているため、調理の日(月2回)には利用者のリクエストに応じている。旬の食材やいただきものの野菜、果物も取り入れ、作る楽しみ、食べる楽しみを味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や本人の体の状態を考慮しながら、食事形態を変えたり、栄養補助食品を提供したりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回口腔衛生士による口腔ケアを行っており、職員は衛生士の指示に従いながら、ご利用者様の口腔内の清潔の保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	じりつされて個々の排泄パターンなどを分析し、誘導を心掛けている。日中の布パンツ使用率は半分以上となっている。	排泄の自立が継続できるようタイミングを見て声掛けし、適切な排泄用品を使用することで自立度の維持、改善を図っている。介助に当たっては、利用者の負担が最小限となるように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトを提供したり、個々の状態に応じて蠕動運動に繋がる運動を行っている。また便秘時には、下剤や坐薬を使い腸閉塞にならないように心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は1日置きでメンバーが固定となっしまっているが、その日の状態や気分配慮し、日にちや時間帯をずらすなどの対応を行っている	入浴はコミュニケーションの時間として一対一で対応し、同性介助にも配慮している。ゆっくり湯船に浸かったり、お風呂上がりにスキンケアをしたりと、利用者それぞれの入浴スタイルに合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動量を増やしたりし、昼夜逆転を防ぐとともに、夜間帯で寝れない方に対しては、無理に寝かせようとせず、ホットミルクを提供したりなど、個々に寄り添った対応を心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	地元の薬局に居宅療養管理指導を行っていただき、内服薬の調整を行っている。また薬についての相談なども柔軟に行なえる体制を整えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の有する能力を活かして、作品作りなどを行い、作品展などに出席し評価される機会を持つ事で、やりがいに繋げる支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援は慎重に行っているが、散歩は毎日行っており、天気の良い日には人混みを避けながらドライブに行くなどの支援をしている	日常の散歩はコロナ下でも継続しており、遠出の外出が減った代わりに散歩の時間を十分に取るようにしている。外食はまだ再開できていないが、感染状況を見て、再開時期を検討している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は金庫預かりとし、必要に応じて、財布からお金を出し、本人の希望するものを購入している。コロナ前は買い物にも頻繁に行っていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の要望に関しては、必要に応じて家族に確認を取り、対応している。コロナ禍で面会の制限をせざるを得ない状況の為、リモートでの面会も可能としている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは季節感のある装飾を施し、施設内においても季節を味わえるように心がけている。	利用者が過ごしやすい雰囲気になるよう、花を飾ったり、職員が利用者同士の仲を取り持ったりしている。庭の手入れは、季節の移り変わりを感じながら利用者も関わっている。室内の飾りつけは、レクリエーション活動で製作している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では皆で食事をしたりする他、イベントやレクリエーションを楽しんだり、気の合う仲間同士自由に過ごせる場として活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家で使い慣れた物を持ち込んでいただいたり、自身で飾り付けをしてもらったりと、ご本人様が住み心地の良い空間になるよう心掛けている	利用者それぞれが好みのものを飾り、家具の配置も動線に配慮し、居室での時間を過ごしやすいようにしている。掃除や衣替えなどができる利用者は、職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわからなくならないように、居室の前に自身の顔写真を掲示したり、トイレへの行き先がわかるように、廊下に案内表示を掲示したりしている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394000042		
法人名	医療法人 双樹会		
事業所名	グループホーム サマリヤの家 西		
所在地	愛知県新城市矢部字広見55番地1		
自己評価作成日	令和4年10月20日	評価結果市町村受理日	令和5年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2394000042-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2394000042-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年11月10日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在、ADLの維持に力を入れ取り組んでいる。毎日の散歩を日課として取り組んでいるほか、昨年より機能向上訓練加算を算定し、当法人の老人保健施設のPTの指導の下、機能訓練も毎日欠かさず行っている。また、職員は、「できることを奪わない介護」を意識し、ご利用者様のできることを共有することで、できないと諦めず、ご利用者様と一緒にできることを増やすように努めている。また、QOLの質の向上を図る取り組みとして、コロナ禍でも可能な限り、外出支援を行い、室内での生活の質の向上や、家族との面会の充実化を図っている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は朝礼で、理念を唱えているが、全ての職員が実践に繋げることはできていない為、実践に繋げられるように努める		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり、RUN伴や認知症サポーター養成講座などを通し、地域住民の方に認知症の理解を深めていただき、利用者の支援として地域に出掛ける機会を取り入れている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座などを活用し、グループホームでの取り組みなどを伝えながら、認知症の理解を深めていただくように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の方々からアドバイスをいただき、運営に活かしている。また、他グループホームにも、会議に参加していただいている為、情報の共有の場にもなっている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症地域推進委員として管理者が配属しており、市町村職員との連携が図れている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない場合を除き、基本的に身体拘束は行っていない。行った場合は早期に拘束が解除できるように、カンファレンス等で話し合いながら検討している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会などを行い、自分の利用者に対する介護について、見直す機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については過去に研修等で学ぶ機会があったが最近では学ぶことができていない。日常生活の自立支援については、本人のできることを見つけながら取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時にご家族様へ丁寧に説明を行っている。また、家族の要望などにも可能な限りお答えできるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様、家族からの意見に耳を傾け、運営の質の向上に繋げる努力をしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の意見を反映し、リスクが高いと思われる提案以外は、職員の意見を尊重し、挑戦する機会を与えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のやりたい介護はできているが、その取り組みを評価してはもらえていない。モチベーションアップを図るための取り組みを考えていただきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修はできていないが、グループホーム内での研修は定期的に行っており、外部での研修も再開し始めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属しており、他施設間交流だけでなく、交換研修等もコロナ流行前は行っていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際はご本人様が不安にならないように、積極的にコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者様の様子などを面会時には伝え、ご家族様のご要望にも、可能な限り応える努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状態やご家族様の要望に応じ、当法人のサービスの紹介や、緊急性がある場合は他法人との連携も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設理念の下、「共に」を大切にし、利用者職員が支え合って生活する場を提供している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に協力していただきながら、ご本人様の要望にお応えし、外出支援を行うなどの取り組みも行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会の制限をせざるを得ない状況であったが、感染状況に配慮し、面会制限を行いながらも、友人等の面会が途絶えないように支援してきた		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、席の配置などを行っている。また、利用者同士のもめ事が起こらないように職員が仲裁に入るなどの対応を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、転居先の施設へ定期的に連絡し、ご利用者様の状態の把握を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様が少しでも満足した生活が送れるように、何気ない会話などからご本人様の要望などを聞き支援に繋げている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する際に、ご家族様からご本人様の家での暮らしや、過去の情報を収集し、ご本人様への支援や対応に役立っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝健康チェックを行い、状態の把握に努めるとともに、日々の過ごし方について職員で情報の共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回各ユニットでカンファレンスを行っており、それを基に、3か月に1回ケアプランの見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきなどをケース記録にまとめ、情報の共有をするとともに、新たな支援等の検討材料として活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様や家族の要望に対し、可能な限りお応えできるように柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しながら、ご本人様の支援の幅を広げ、在宅で暮らしていた時以上に充実した生活を送ってもらえるように努める		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所と同時に、協力医を基本的に主治医としていただき、医療面でのサポートをいただいている。また、希望により入居前からのかかりつけ医を主治医とする方もいる		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年1月より看護師がSSに異動になったため、GH直属の看護師ではないが、SSの看護師に、月2回、入居者の状態把握の為、バイタルの測定や爪のケア等を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるADLの低下を防ぐために、早期退院できるよう、病院との連携を図るようにしている。また、		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じてカンファレンス等で話し合いを行い、必要に応じて家族と話し合いの場を設け、今後の方針を決め、次の行き先などのサポートを行う		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的な知識は身につけているが、経験が乏しい為、不安がある。今後、消防署と連携し応急手当などの方法を学んでいく予定		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際の災害時を想定した訓練はなかなか行えておらず、今後の課題ではあるが、地域との協力体制は、地域の防災会議等に参加し、構築するように心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症だからと決めつけず、個々の発言や言動に対し、傾聴し対応することを心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限るご本人様が自己決定できるように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のできることを奪わない為にも、ご本人様のペースで物事が行えるように、声掛け等に注意しながら支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、眉毛を描いたり、自身で髭を剃っていただく習慣を身に付けていただくように支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニット月2回調理の日を設けており、利用者の食べたい物をメインに、職員と利用者が一緒になって調理を行う日を設けており、作る楽しみ、食べる楽しみを味わっていただいている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や本人の体の状態を考慮しながら、食事形態を変えたり、栄養補助食品を提供したりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回口腔衛生士による口腔ケアを行っており、職員は衛生士の指示に従いながら、ご利用者様の口腔内の清潔の保持に努めている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	じりつされて個々の排泄パターンなどを分析し、誘導を心掛けている。日中の布パンツ使用率は半分以上となっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトを提供したり、個々の状態に応じて蠕動運動に繋がる運動を行っている。また便秘時には、下剤や坐薬を使い腸閉塞にならないように心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は1日置きでメンバーが固定となってしまうが、その日の状態や気分配慮し、日にちや時間帯をずらすなどの対応を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動量を増やしたりし、昼夜逆転を防ぐとともに、夜間帯で寝れない方に対しては、無理に寝かせようとせず、ホットミルクを提供したりなど、個々に寄り添った対応を心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	地元の薬局に居宅療養管理指導を行っていただき、内服薬の調整を行っている。また薬についての相談なども柔軟に行なえる体制を整えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の有する能力を活かして、作品作りなどを行い、作品展などに出展し評価される機会を持つ事で、やりがいに繋げる支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援は慎重に行っているが、散歩は毎日行っており、天気の良い日には人混みを避けながらドライブに行くなどの支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は金庫預かりとし、必要に応じて、財布からお金を出し、本人の希望するものを購入している。コロナ前は買い物にも頻繁に行っていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の要望に関しては、必要に応じて家族に確認を取り、対応している。コロナ禍で面会の制限をせざるを得ない状況の為、リモートでの面会も可能としている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは季節感のある装飾を施し、施設内においても季節を味わえるように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では皆で食事をしたりする他、イベントやレクリエーションを楽しんだり、気の合う仲間同士自由に過ごせる場として活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家で使い慣れた物を持ち込んでいただいたり、自身で飾り付けをしてもらったりと、ご本人様が住み心地の良い空間になるよう心掛けている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわからなくなならないように、居室の前に自身の顔写真を掲示したり、トイレへの行き先がわかるように、廊下に案内表示を掲示したりしている		